



えんじゅ

春日市立春日小学校

校長室便り No.6

令和2年7月10日

文責：校長 福島

セミの話



セミの鳴き声が聞こえるようになりました。今日は学校であった2つのセミの話を紹介します。

左の写真は、クマゼミが蛹から出てこうとしているところです。「校長先生、ちゃんと出てきますか。」「動いているのを確かに見ました。」「昨日は足が出ていなかったけど、今日は足が出ていました。」毎日4年1組に行くと一時セミの話題で授業が中断していました。4年1組では、子供たちがいろんな生き物を持ってきました。教室の後ろには飼育ケースがずらりと並んで、イモリやヤモリをはじめ、たくさんの生き物が並んでいます。「バッタが脱皮したんですよ。足が抜けたときはすごかったです。」みんな目をクリクリさせ、話してくれます。

クマゼミは残念ながら成虫になることはできませんでした。みんなでゴーヤ畑にお墓を作ったそうです。命の営みを感じ、限りがあることも学んだことでしょう。

右の写真は今朝、1年生のひぐちこうた君が校門まで持ってきたアブラゼミです。「校長先生、アリにたかられていたのを助けました。どうしたらいいですか。」「やっぱり目をくりくりさせて元気いっぱい話しかけてきました。」「優しいですね。木にとまらせましょう。」「一緒に行きましたが、弱っていて落ちてしまいます。」「人に見つかったらいけないから高いところにおいでください。」「同じ学級の友達も「がんばれ!」「だいじょうぶかな。」「一緒に応援してくれました。」

1年2組の教室を回った時、ひぐち君に声をかけようと探していると、テストを返してもらった帰りにさりげなくゆがんだ友達の椅子を直すひぐち君を見つけました。「優しい子なんだな。」心が温くなりました。「セミ、ちゃんと木にとまっていたよ。」と伝えるとにっこりしました。

子供は好奇心の塊です。無限の可能性を持っています。子供の行動にはすべて動機があることを理解し、子供の声にじっくりと耳を傾けることでよさが見えてきます。そのためには「ゆとり」が必要です。職員のゆとりを生み出すことが校長の仕事です。

多くの方に毎日学校を支えていただいていることに改めて感謝するとともに、ご家庭でもゆとりをもってお子様の声に耳を傾けていただきたいと思います。